

2018年1月政情(内政・外交)

1 内政

(1) バレーラ大統領の施政方針演説

ア 2日、議会後期会期開会にあたり、バレーラ大統領は、政権発足後42カ月の政策の成果及び今後の施政につき施政方針演説を行った。

イ 演説において、同大統領は、中国との外交関係樹立をはじめとする成果に言及するとともに、本年の施政方針として、メトロ1号線及び同2号線の延伸工事及びメトロ3号線建設工事の入札等を挙げた。また、この10年にわたり、運河拡張工事、メトロ1号線及び2号線建設工事等のメガプロジェクトによって、パナマ経済は成長してきた旨指摘し、これからの数年は、メトロ3号線及び第4運河橋建設工事が経済成長の原動力となると述べた。

(2) 民主変革党(CD)執行部選挙

ア 21日、CDは執行部選挙を実施し、総裁選挙ではルー幹事長がマルティネリ総裁(前大統領)に勝利した。また、他の執行部職についても同幹事長派が多数を占めることとなった。

イ ルー新総裁は、「民主的に行われた党内選挙における勝利者は党である。本日、CDは勝利した。我々は、変革を成し遂げ、改革への途を選択したのである。野党としての姿勢を堅持し、2019年総選挙ではふたたび政権に返り咲く」旨述べた。

ウ 副総裁に立候補したリナレス・デ・マルティネリ前大統領夫人は、「敗北は予想外だったが、ルー幹事長の勝利を認める」旨述べた。

(3) 最高裁判事人事

ア 30日、議会本会議は、政府によるトバル候補及びムーレ候補の最高裁判事への指名を否決した(賛成18票及び反対52票)。

イ バレーラ大統領は、「適切な、高潔でかつ汚職に関与しない人物を改めて指名する。汚職に手を染めた政治家は、誠実な判事を恐れるものである。トバル候補及びムーレ候補を否決した議会の決定は尊重するが、議員は、誠実な司法制度よりも党利党略に関心があることを示した」と述べた。

ウ 野党PRDのゴンサレス幹事長は、「バレーラ大統領及びロイ運河担当大臣兼メトロ公社総裁がオデブレヒト社と関係があるに違いないにもかかわらず、担当検事のムーレ候補は捜査をしなかった」と反対した理由を説明した。

エ ルーCD総裁は、「政府により指名された最高裁判事候補2名は、司法制度の強化に必要な独立性に欠けていた。CD所属議員は、(21日の党内選挙で選出された)新執行部とのコミュニケーションを維持し、野党としての役割を果たした」旨述べた。

2 外交

(1) フィーリー駐パナマ米大使の辞意表明

ア 12日、米国及び英国のメディアは、「フィーリー駐パナマ米大使は、トランプ政権の下で、これ以上職務を継続することができないと考え、米務省を辞任することを決めた」旨報じた。

イ 英ガーディアン紙によれば、(辞表提出について、)フィーリー大使は、「外交官研修生時代、その政策に同意できないとしても、大統領及び政権に誠実に奉仕する旨宣誓書に署名した。自分(フィーリー大使)の教官は、上記宣誓に従えないときには、辞任しなければならないと述べた。その時が来たのである」旨述べた。

ウ ヘザー・ノアート米務省報道官は、「昨年12月27日、フィーリー大使は、一身上の理由により、3月9日を以て辞職する旨政府に伝えた」旨明らかにした。

(2) 「一帯一路」構想に関するハイレベル会合の開催

ア 17日、パナマを訪問した王晓濤(Wang Xiaotao)中国国家発展改革委員会副主任とインカピエ外務次官は、「一帯一路」構想に関する第1回ハイレベル会合を開催した。

イ 同副主任は、「習国家主席とバレーラ大統領が提起したように、両国の企業及び国民がともに利益を享受することが重要である」旨強調した。

ウ 同外務次官は、パナマが「一帯一路」構想において担う役割、また、中国企業がラテンアメリカ市場へアクセスするため、パナマが提供するパナマ運河、コロンフリーゾーン、航空及び鉄道プラットフォームの役割を強調した。

エ 同副主任及び同外務次官は、パナマが「一帯一路」構想に参画したことでもたらされるチャンスへの理解を促進するため、中国政府がセミナーを開催することで合意した。

(3) バレーラ大統領の欧州訪問

ア 21日から26日まで、バレーラ大統領は、蘭及びスイスを公式訪問した。今般の訪欧には、サイン・マロ副大統領兼外務大臣、デ・ラ・グアルディア経済財務大臣、カルレス農牧開発大臣、イム観光庁長官及びバラカット海事庁長官他が同行した。

イ 同大統領は、21日、スキポール空港幹部とオペレーション、セキュリティ及び同国最大の空港のビジネスモデルについて意見交換した。22日、ロッテルダム港を視察後、マルク・ルッテ首相と会談し、農産物の物流管理、税務に関する透明性及び協力をはじめとする二国間の課題について協議した。サイン・マロ副大統領兼外務大臣と共に、ウィレム・アレクサンダー国王陛下及び同妃陛下に拝謁した。

ウ 23日、同大統領は、世界経済フォーラムに出席するためスイスを訪問し、メディーナ・ドミ(共)大統領がモデレーターを務めたベネズエラに関する外交対話にパネリストとして出席した。

エ モスコビシ欧州委員(経済・財務及び税制担当)と会談した同大統領は、パナマとEUの課題及び金融分野の透明性及び国際協力に関する進展について協議した。その後、サイン・マロ副大統領兼外務大臣及びデ・ラ・グアルディア経済財務大臣他と共に、AT&T社幹部と会談し、パナマに地域本部を設置する利点について説明した。同社幹部は、2月に米州地域幹部を対象とした年次会合をパナマで開

催することを明らかにした。

オ サイン・マロ副大統領兼外務大臣は、女性政治指導者のグローバルフォーラムに出席し、「女性、労働、賃金：ジェンダー格差解消のために」と題した講演を行った。